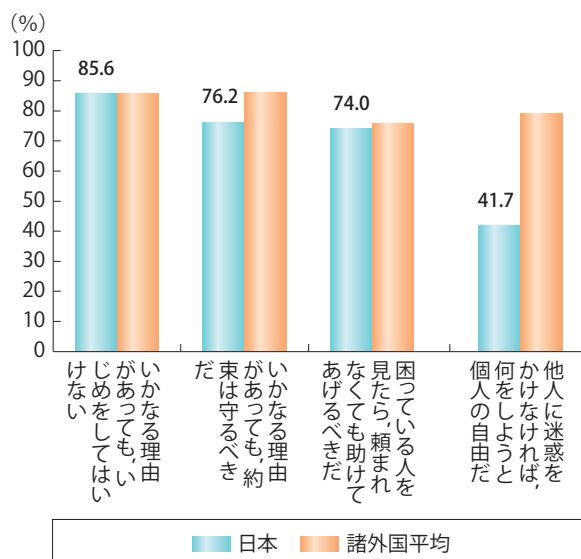


(4) 社会規範

日本の若者は、諸外国の若者と同程度かそれ以上に、規範意識を持っている。

「いかなる理由があっても、いじめをしてはいけない」と思っている日本の若者の割合は9割弱、また、「いかなる理由があっても、約束は守るべき」、「困っている人を見たら、頼まれなくても助けてあげるべき」と思っている者の割合は7割以上となっており、いずれも諸外国と比べて大きな差はない。さらには、「他人に迷惑をかけなければ、何をしようとする個人の自由だ」と思う者の割合は諸外国と比べかなり低い。(図表9)

図表9 社会規範



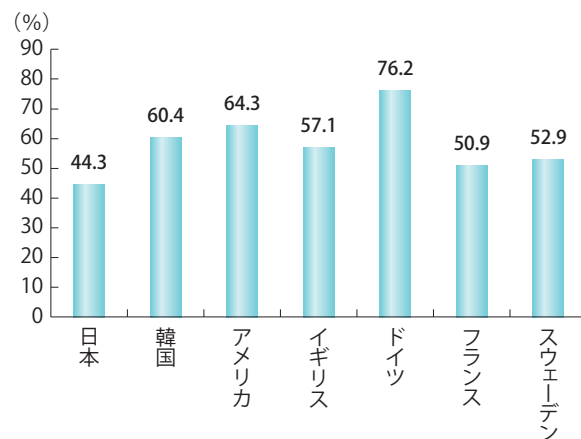
(注)「あなたは次のことについてどう思いますか。」との問いに対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計。

(5) 社会形成・社会参加

社会問題への関与や自身の社会参加について、日本の若者の意識は諸外国と比べて、相対的に低い。

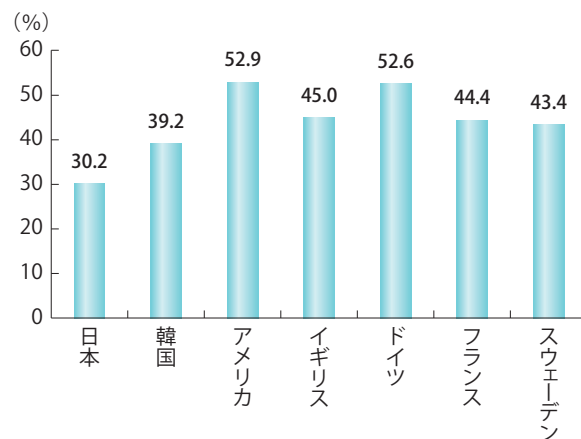
「社会をよりよくするため、社会問題に関与したい」と思っている日本の若者の割合は4割強、同様に「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」と思っている割合は約3割となっており、いずれも日本が最も低い。(図表10, 11)

図表10 社会の問題に関与したい



(注)「次のような意見について、あなたはどのように考えますか。」との問いに対し、「社会をよりよくするため、私は社会における問題に関与したい」に「そう思う」「どちらかといえば関そう思う」と回答した者の合計。

図表11 社会現象が変えられるかもしれない



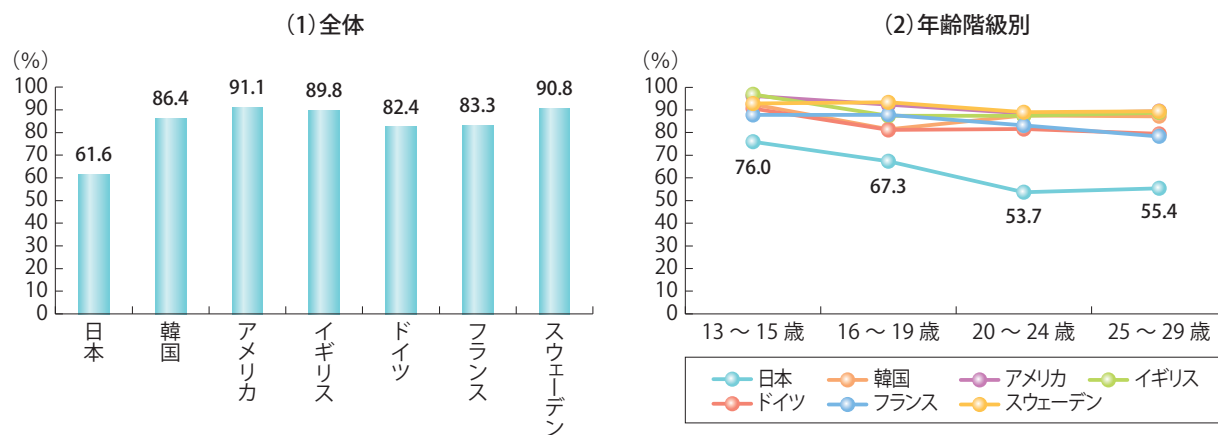
(注)「次のような意見について、あなたはどのように考えますか。」との問いに対し、「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」に「そう思う」「どちらかといえば関そう思う」と回答した者の合計。

(6) 自らの将来に対するイメージ

日本の若者は諸外国と比べて、自分の将来に明るい希望を持っていない。

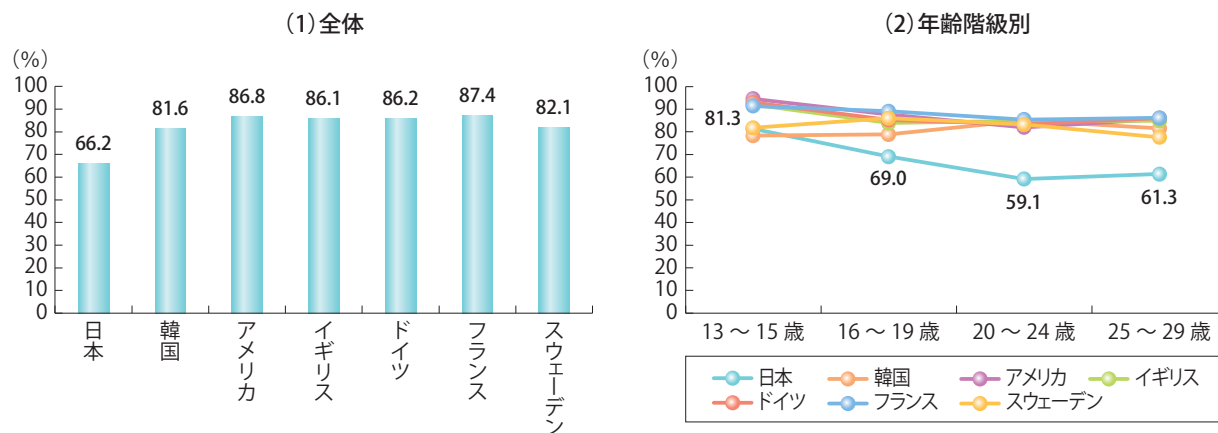
自分の将来に希望を持っている割合は6割強、40歳になったときに幸せになっていると思う割合は7割弱で、いずれも諸外国の中で日本が最も低い。年代が高くなるほど、その傾向が顕著である。(図表12, 13)

図表12 将来への希望



(注)「あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。」との問いに対し、「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と回答した者の合計。

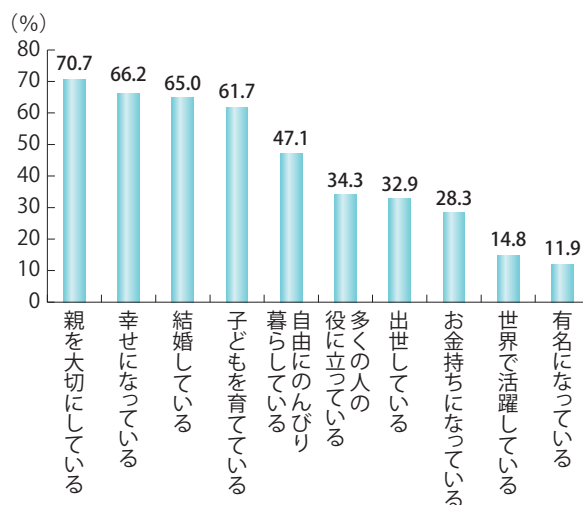
図表13 40歳になったときのイメージ (幸せになっている)



(注)「あなたが40歳くらいになったとき、どのようになっていると思いますか。」との問いに対し、「幸せになっている」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計。

日本の若者が抱く自分が40歳になったときのイメージでは、「有名になっている」や「世界で活躍している」といった立身出世に関する項目は相対的に低く、「親を大切にしている」や「子どもを育てている」といった家族形成に関する項目は相対的に高い。(図表14)

図表14 40歳になったときのイメージ



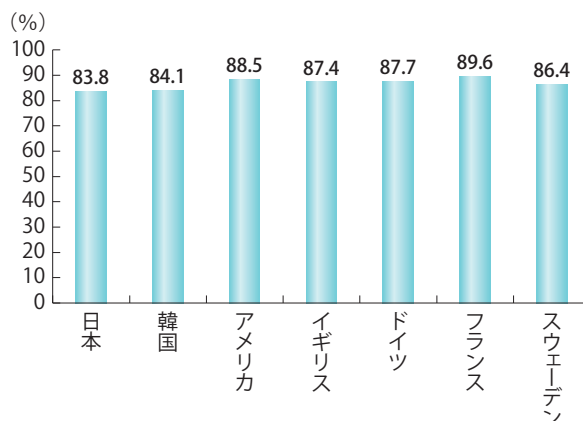
(注)「あなたが40歳くらいになったとき、どのようになっていると思いますか」との問いに、各項目において「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計。

2 家族・家庭生活

親からの愛情に対する意識は、日本の若者と諸外国とで大きな差はない。一方で、家族といるときの充実感や家庭生活の満足度は、相対的に低い。

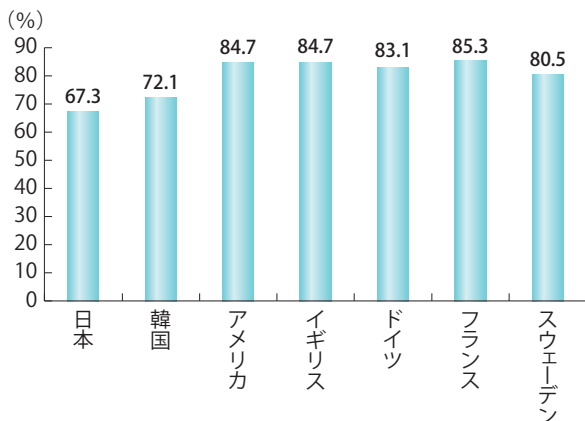
日本の若者の8割強が自分の親から愛されている(大切にされている)と思っており、諸外国と比べても大きな差はない(図表15)。一方で、家族といるときの充実感や家庭生活の満足度は、諸外国と比較して相対的に低い(図表16, 17)。

図表15 親から愛されている・大切にされている



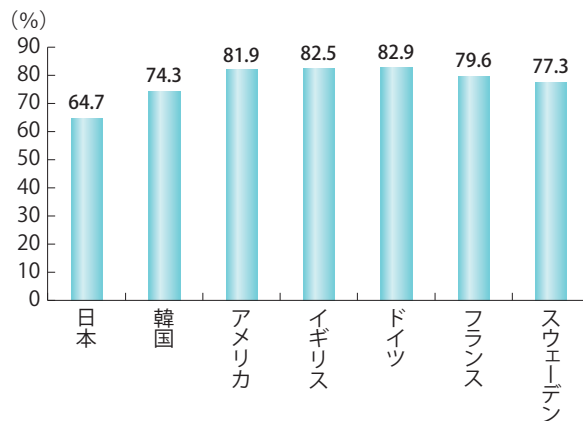
(注)「次のことがらにあなた自身にどのくらいあてはまりますか。」との問いに対し、「自分の親から愛されている(大切にされている)と思う」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者の合計。

図表16 充実感(家族といるとき)



(注)「あなたは、どんなときに充実していると感じますか。」との問いに対し、「家族といるとき」に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した者の合計。

図表17 家庭生活の満足度



(注)「あなたは、家庭生活に満足していますか、それとも不満ですか。」との問いに対し、「満足」「どちらかといえば満足」と回答した者の合計。